

OPECA 特定非営利活動法人 岡山環境カウンセラー協会会報

2018年初夏号 2018年6月3日(日)発行

環境適応能力とダイバーシティ



岡山環境カウンセラー協会 会長 三宅 直生

私が環境カウンセラーに登録されたのは1997年で今から20年以上前になります。

その翌年には、8人のメンバーで岡山環境カウンセラー協会が創立されました。

この協会も社会の変化、特に高齢化の波を被り、物故者になられた方もいて、最盛期には50名を超えていた会員数も現在は賛助会員の皆様を含めて30人少々に減っています。



私は以前、若者や職場の仲間が「環境保全」に取り組むことで社会に貢献でき、人間として成長することを中心に考えて協会に関わり、ついこの前までは、高齢者を中心とした地域の方々が豊かな人生を送るための生涯学習の一助となることを念頭において協会に関わってきました。

変化する社会の中で「岡山環境カウンセラー協会に永く関わられてきた」ことに想いを巡らせています。

話は変わりますが、1983年に日経ビジネス誌は「会社の寿命（企業が繁栄を謳歌できる期間）は30年」と唱えました。さらに、最近になって同誌は、情報化・グローバル化の中で「会社の寿命は7年」とも言っています。そして、適応能力の高い生物が進化し、生き延びたように、変化する時代を生き延びるキーワードは「環境適応能力」と言っています。

岡山環境カウンセラー協会に目を向けますと、後期高齢者になった協会の前会長や元会長をはじめ、会員の方々が地域の組織のリーダーとして横のつながりを持ちながら活動に精を出しているのは、まさに「環境適応能力」だと感じています。

さて、企業もそうですがNPOの多くは、社会課題の解決や社会貢献を目指して活動していると思います。私たちの協会は「組織のリーダーが集まっている」ということが特徴です。最近ではリタイアして個人での活動に重きを置く会員も出てきました。このことは、すでに企業や地域などで社会課題の解決や社会貢献を行っている者が集まって、情報交換をしたり、学び合うことに意義を見出す組織であるということの意味します。また、環境カウンセラーの制度は事業者部門と市民部門に分かれていて、それぞれの立場や意識が異なっていることも特徴です。このため、協会の活動に違和感や物足りなさを感じる方もおられるかと思えます。

何度も「環境適応力」と書きましたが、もう一つ大切なことは「ダイバーシティ＝多様性を受け入れること」であると思っています。

私は今年4月からは年金暮らしの道を選択していて協会以外の組織には属しませんが、実行していることは「どこで生き残るかわからない、いろんな処でいろんな事をやろう」です。

そこで実践しているのは、「①古典を題材にした環境学習講座の企画運営、②台所でできる大人の科学実験の企画運営、③英語の学習」の3つです。

何故このようなことをしているかといえば、これまでの経験から環境保全活動のためには、環境に関する知識ばかりでなく、歴史、経済、哲学などの素養つまり教養が重要であると実感しているからです。



古典を題材にした環境学習講座
～ごみゼロの日に良寛の詩歌を学ぶ～

このような活動をし、参加者の方々との交流をと
おして人々の様々な意識や世の中の流れを感じ「環
境適応力」を磨きたいと思っています。同時に、様
々なふれ合いや交流をとおして「いろいろな考え
方や個性を受け入れよう」と心がけています。

一方で『これは自分には向いていない』あるいは
『やりたくない』と思った場合は『とにかく逃げて
やりすぎず』ことにしています。これは『とにかく
逃げてやりすぎしながら』如何にして受け入れるか、
受け入れることが出来るかを考え結論を出す時間稼
ぎをするためです。

最後になりましたが岡山環境カウンセラー協会発
足20年という節目に会長になってしまっています。

個人的に自らを振り返ってみても、状況はずいぶ
んと変わり、グローバル社会、超高齢社会は本当に
身近なものになっています。

創設時を振り返ると、前述したように、私どもの
協会は社会課題の解決や社会貢献を行っている者が
集まって、情報交換をしたり、学び合うための組織です。その目的達成のための行事をワイワイガヤ
ガヤと楽しく開催したことが思い出されます。

当時と比べて世の中も変わり、会員も齢を重ねています。最近は『無理せず、身の丈に合った活動』
を心がけていますが、これも「環境適応力」だと自分に言い聞かせています。



台所で出来る大人の科学実験
～台所の汚れを化学する
酸・アルカリと中和～

親子エコフェスタについて

岡山環境カウンセラー協会 理事 神田 寿則

美作圏域（津山市を中心とする地域）では14年前より親子エコフェスタが開催されています。本年
度も6月10日（日）にアルネを中心に津山市の中心街で行われました。

このフェスタは、備前・備中・美作の3地区で環境イベントが行われたのが初めて、今年14回を迎
えることができました。

この親子エコフェスタは3つの目的のため行われています。

- ①環境の啓発：こどもさんを中心に環境について体験を通して理解を図る。
- ②環境団体どうしの交流の場として他団体との交流を図る。
- ③街中の活性化のため役立つ。



今年も多くの団体やボランティアの方々のおかげで実施することができました。

このイベントでは出展者の工夫で展示だけではなく、体験を重視したイベントで来場者から好評
でした。

「探検 ⇒ 発見 ⇒ ほっとけん」で少しでも環境問題に対し、気付き行動に移してくれること
を願いはや14年が経ちました。環境問題はより複雑になり多様化していますが、一人でも多くの人
が環境に興味を持ち、行動に移してくれることを願っています。

*岡山環境カウンセラー協会は下の表のような活動を予定しています。一部ですが記載しました。

2018年度（平成30年度）活動計画の一部を紹介

時期	事業名称等	事業内容等	場所
通年	組織運営助言	環境関連事業等の相談・助言	松江市等
通年	EMS相談・助言	環境関連事業等の相談・助言	県内外
通年	経営セミナー（コンサル、講演）	環境関連事業等の相談・助言	岡山県内
通年	環境学習講師	環境関連事業等の相談・助言	岡山県内
12月8日	市民のための環境講座	環境関連事業等の企画・運営	岡山市
6月10日	親子エコフェスタ出展	環境関連事業等の企画・活動	津山市
8月9日	おかやま環境教育ミーティング	環境関連事業等の企画・運営	岡山市
通年 6月初旬 12月15日 10月上旬	自然保護活動（ホテル再生） ホテル鑑賞会 ホテルを唄う つらじま農協祭り（ジビエ）	環境関連事業等の企画・運営	倉敷市
通年	自然保護活動（環境美化）	環境関連事業等の活動・運営	津山市
通年	環境学習講座	環境関連事業等の活動・運営	岡山市
8月3日	エコツアー	環境関連事業等の活動・運営	笠岡市
10月上旬	リサイクルフェアイン倉敷出展	環境関連事業等の活動・運営	倉敷市
6月3日	総会	環境関連事業等の活動・運営	岡山市
通年	定例会	会員の情報交換	岡山市
通年	ホームページ管理	環境問題に関する情報交換	岡山県内
通年	会報誌「OPECA」発行	会員の情報交換	岡山県内
通年	ECU活動	会員の情報交換	東京他
随時	記念誌編集委員会	会員の情報交換	岡山県内
随時	岡山市ESD推進協議会	環境関連事業等の相談・助言	岡山市
随時	岡山県環境審議会	環境関連事業等の相談・助言	岡山市
随時	岡山市環境審議会	環境関連事業等の相談・助言	岡山市
随時	津山市環境審議会	環境関連事業等の相談・助言	津山市
随時	津山市温暖化対策協議会	環境関連事業等の相談・助言	津山市
随時	高梁市環境政策審議会委員長	環境関連事業等の相談・助言	高梁市

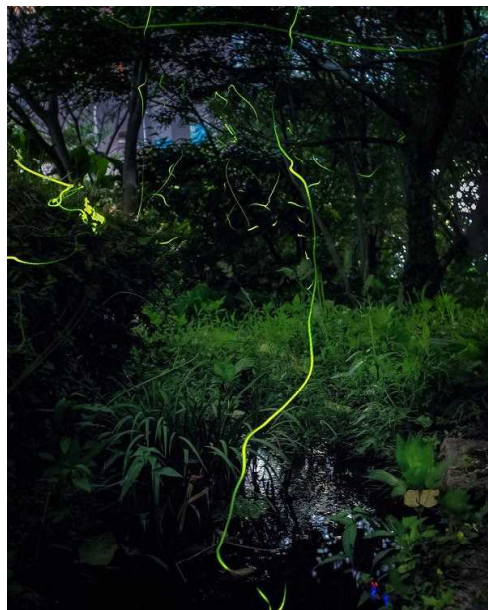
ホタルに魅せられて

岡山環境カウンセラー協会 顧問 福留 正治

ホタルこと始め

もう4年ほど前になるだろうか、秋も深まった良く晴れた日のことであった。「難波さん、水島の3方コンクリートの八間川でもホタルは復活できますか？」難波貞敏氏が理事長を務めている「NP021世紀の環境づくりを進める会」が玉島でホタルの復活活動을 続けて見事にホタル飛翔を成功させているのを目の当たりにしていた。唐突な問いに対し早速に「今から見に行ってみよう」、いくつかの橋の上から観察して、「カワニナもいるし、流れもあるので可能性はあるな」と嬉しい診断をしてもらった。虫への強い郷愁や難波さんからの心強い言葉と情熱に後押されてホタル復活活動へのめり込むことになったのである。

公害問題にさらされた水島のまちに対する一般市民のイメージは今なお、キタナイ、暗い、ごみっぼい、危ない、「ホタルやこ飛ぶか」など惨憺たるものである。「もしも、八間川にホタルが舞ったなら、悪いイメージは払拭されて公害のまちから環境のまちに見直されるのではないだろうか」こんな夢を抱きながら、無謀にも「八間川にホタルを飛ばそうプロジェクト」を立ち上げた。折から香川大学大学院生（女子大生）が卒論テーマにしたいということで一緒に活動することになった。



水島愛あいサロンのホタル
平成30年5月31日撮影

「冬のホタル」プロジェクトマッピング

本物のホタルが舞う前に、先ず八間川の橋に「冬のホタル・プロジェクトマッピング」でホタル乱舞の投影祭り（大学院生の発案）を実施した（2015年11月）ところ、その反響に大きな手ごたえを感じた。研究論文によると『イベント前は八間川に自ら主体的に関わる価値を見出していなかったが、イベント後は人々が八間川に対して多種多様且つ主体的に関わる価値を見出したことが明らかになった』と結論づけている。「ホタルの復活はきっと水島のイメージを回復させ、活性化にも一役買うだろう」という強い確信を持った。幼虫飼育、八間川への放流など「NP021世紀の環境づくりを進める会」の指導援助のもと、ホタルの「ホ」の字から手ほどきを受け、この会にも入会させてもらった。

また、連島地域ボランティア団体の「つらレンジャー」が全面的に参加に乗り出し活動することになった。さらに水島まちづくりの団体など多くの方々が支援してくれた。



放流されたホタル幼虫と餌の
カワニナ

八間川への放流失敗から「水島愛あいサロンのビオトープ」へ幼虫放流

3年間に亘る幼虫放流もむなしく、八間川にはホタルは一匹も飛ばなかった。増水して急流になった時に放流した幼虫が全て流されてしまう。川底に隠れしがみつく石組みのような構造になっていないため幼虫が住める川ではなかったのである。八間川に直接幼虫を放流することは諦めざるを得なかった。そこで、まちづくり活動家の取り計らいで「水島愛あいサロンのビオトープ」に放流する許可を得た。ビオトープで十分な繁殖力を付けてから八間川へも移行させていこうというプロセスへ方針変更した。試行錯誤して困惑している私達に対して、手取り足取り懇切丁寧な指導をして下さるNP021の方々、並びに「水島まちづくりの集い」の方々に勇気づけられた。2017年11月と2018年3月の2回に分けてホタル幼虫放流を行った結果、今年4月雨の日に幼虫の上陸が観られた。

雨の降りしきる肌寒い中、淡い光を放ちながら必死に



中学生による放流（2017年11月）

なって水中から這い上がる様子に感動し目頭が熱くなった。自然が生み出したルールに従い、命にむかって突き進む小さな姿に神秘と敬虔の念すら覚えた。

ホタル博士にも上陸の様子を観てもらった。2回にわたる観察で2か所、約40匹くらいの幼虫上陸が行われたと思われる。ほぼ90%の確率でホタルの飛翔が観られるだろう、という判断であった。改めて自然界の本質に触れたような気がする。過って公害のまちだった水島にホタルが舞う、水島がホタルの住む環境になったことを証明したい、こんな夢を抱いて活動を続けてきたが、今や実現しようとしているのである。こんなうれしいことがあるだろうか。

ホタルと日本人

古老の話によると八間川には昔、ホタルが飛んでいたそう。ホタルの生息は人類の歴史よりはるかに古いとされている。青山勲先生（岡山大学名誉教授・おかやま環境ネットワーク代表理事）は「漆黒の闇の中に小さな光を発しながら怪しげに群舞する幻想的なホタルは、古くから私たち日本人の心をとらえてきました。さまざまに表現されたり、詩や俳句・短歌に読まれたのは多くの人々がホタルに郷愁を感じたからでしょう」そして「皆さんが、もっとホタルについて生理・生態を知ると共に一緒にその生息環境を守り、人間にとっても生物にとっても快適な環境づくりをやってほしい」と述べられ、日本人のこころの歌が紹介された。

「音もせで 思いに燃ゆる蛍こそ 鳴く虫よりもあわれなりけれ」（源 重之）

*（「おかやま環境ネットワーク・岡山のホタルをよむ」より）

水島にホタルが飛んだ

5月21日「水島愛あいサロンビオトープ」の草むらの中にホタルの淡い光2つを発見、欣喜雀躍した。なんとホタルが土サナギから羽化した瞬間である。それから6月初めまでの情報だが、毎日21時頃になると約10匹ほどが現れて、飛んだり、葉っぱや木の枝に止まったり、草むらの中で光ったり、地元の人々を楽しませてくれている。「水島のまち中にホタルが飛ぶなんて思いもしなかった、感激だわア」とある地元の母娘連れが云ってくれて涙が出るほど嬉しかった。

また、サロンロビーで受験勉強をしている高校3年生の女子学生が勉強の済んだ21時頃毎日のようにホタルを観にやって来る。初めて見る蛍は勉強に疲れた心を癒してくれるという。

この直ぐ近くに住んでいる。大学に進学してもこの地を大事にしたい、ホタルはこんな出会いを醸し出してくれた。蛍の数は少ないが、数ではない、水島のまち中にホタルが飛んだこと自体、他処のホタル乱舞とは違う大きな出来事なのである。ホタルによって何かが変わる、何かに気づく、そして水島のまちづくりに役立つ、このことこそが目的であったので、この女子高校生との出逢いこそがとても大きな成果だと思っている。4年目の実現に感無量である。

また、平成30年12月15日（土）には玉島文化交流センターホールで「ホタルの唄とフォーラムの集い〜玉島にホタルを飛ばそう」を開催する予定である。地元の皆さんに歌とホタルの話を通じ楽しみながらホタルの魅力を知ってもらい、ホタル復活ボランティア活動を理解支援していただくことがねらいである。地域を愛する心を養い、本来の日本人の心を育むことこそが環境保全活動には絶対に欠かせない要件であると思っている。



出現したホタル
2018年5月25日21時頃

今春の観光地訪問雑記

岡山環境カウンセラー協会 理事 鐘築 勝利

この春に訪れた先の紹介と雑感です。

ひとつは北陸福井の一乗谷への旅です。4月半ばある日、この冬は記録的な降雪があったものの、さすがに道路に雪はありません。遠く遥かに見える山々の峰には残雪が見えます。小一時間を車で走って岡山平野をしのぐ坂井平野の広大さに北陸の豊かさを感じました。

さて、一乗谷は現在の福井市中心から東南に約十キロメートル、足羽川支川沿いの幅数百メートル、長さ数キロメートルの谷です。福井市から何気なくこの地を訪れると、目を疑うような空間が広がっていることに驚きを感じます。戦国時代越前地方を平定した朝倉一族が本拠とした戦国大名居館の地であり、100年にわたって北陸の地で文化の花を咲かせた地です。京都からも多くの文化人が招待され、当時の一流文化人たちが歌を詠んだり、茶会を開いたものとされる、まさに小京都と称されるにふさわしい都市であったと。ちなみにここはあの佐々木小次郎が燕返しに開眼した谷としても有名です。

訪れた時期は丁度一乗谷沿いの屋敷跡の桜がまさに満開、往時の華やかさ偲ばせるに十分の風景でした。この地は世間ではあまり名も知れず、観光地としての宣伝も少ないせいか観光客もまばらで、昔に思いを馳せながらゆったりと楽しみました。

ではなぜこのように遺跡が残ったのでしょうか。それは朝倉家滅亡の後、この地は水田となり、水田下に埋まって近代までの開発から免れたためとされています。ただ、この地がより福井市街地に近かったら、どうだったでしょう…と疑念が少しよぎりますが。近年は開発による文化財破壊は世間でも取り上げることが少なくなってきましたが、そのような開発事案がなくなってきたということなのでしょうか。日本の歴史特に中世に興味をお持ちの方はこの地を訪れて、いろんな想像をめぐらせながらの散策、探検をお奨めします。

もうひとつは高松栗林公園観光です。

5月中旬、快晴で雲一つない見通しも抜群に優れた行楽日和に20数年ぶりに栗林公園を訪れました。直前に高松駅横のビル30Fの展望席で眼下に広がる瀬戸内海と屋島の光景を目に焼き付けました。さて、栗林公園に入園すると、眼前いっぱい広がるみどりみどりの空間がありました。植樹された木々群とそれに借景としての新緑も眩しい紫雲山が映えて見え、これでもかと緑を見せつけられた思いでした。でも何かしら昔は感じなかった戸惑いを覚えました。枯れ気味の木が2、3本でもあったらと…、これは年のせいでしょうか。

庭園や庭木のことは全くの素人でわかりませんが、樹齢数百年かしらの古松の芸術的な姿は心を打たれます。まさに日本の誇る生きた芸術と言っていいでしょう。それも1本や2本ではなく、相当数に及ぶものです。拙宅の木庭にも庭木を育てていますが、日頃の手入れというほどのことはしないまでも、選定、日当たり調節、殺虫・殺菌等には気を遣うものです。栗林公園の木々の管理にはどれだけの人間の手が必要なのか、またどのように行っているのかと問いたくなるものです。

そこで、気になることが一つ、それは園内の臭いです。直近で農薬が散布されたと思われ、おそらくはそれらがこの好天気のもと、朝からの昇温で蒸散しているもと考えられました。また池に大きな鯉が悠々と泳いで観光客を喜ばせていましたが、この2、3日後のTV報道によれば鯉ヘルペスで750匹全てを殺処分中とか…、あの日が鯉の見納めとなったとは、辛いニュースとなりました。

今春の旅で、一乗谷では歴史と開発を、栗林公園では自然との共生を考えさせる機会でもありました。

以上

編集後記

今回は「環境適応能力とダイバーシティ」でまとめてみました。環境省認定の環境カウンセラーには事業者部門と市民部門があります。事業者部門はまさに「環境」を生業としてきた人々で、多くの知見を蓄えています。市民部門は環境保全活動をボランティアで真摯に取り組んできた人たちです。

仕事は指示、命令で動くことも多々ありますが、ボランティアはあくまで自発的に、あるいは「お願い」されて動くものです。背景の違いを認め合い、ともに仲良く活動するため「環境適応能力とダイバーシティ＝多様性を受け入れること」を基本として行動しています。

発行：岡山環境カウンセラー協会 ホームページアドレス <http://opeca.or.jp/>
本部 〒700-0925 岡山県岡山市南区妹尾2618大成化工ビル4F TEL&FAX(086)282-8727
E-Mail：環境カウンセラー協会ホームページのお問合せフォームから
倉敷事務所 〒712-8015 岡山県倉敷市連島町矢柄5832-9 福留方 TEL&FAX(086)446-0880
発行人・編集人：三宅直生